日刊 動労千葉
1988.7.8.
No. 2852
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「動労千葉のことはよくわかる」

長崎の地を訪れて

佐倉支部 H生

六月二一日より五日間、九州は長崎に物品販売オルグに行ってきた。

長崎というところは、大変坂がおおく、加えて一方通行が多いところで、地元の人と一緒に労組を訪ねたが、地図を片手に車を走らせてもなかなか目的の場所が見つからないなどハプニングがあって大変苦労をした。

それでも、長崎の小・中学校を中心に約五〇ケ所ほど労働組合、各分会などを回ることができた。

子供たちのためにも戦争の道は許さない！

学校の各分会では、「動労千葉のことはよくわかる」といった反応が大変多かった。ある分会の女性の役員の方は、「長崎の教職員組合も、五人くらいの分会が多く、少ないところでは二人のところも、若い人が組合ばなれで大変、また教育改革ということで教育労働者への選別攻撃が加えられるなかで、『戦争へ向けた教育機構づくり』に、これからも子供たちのためにも、こうした状況と対決する。動労千葉のみなさんも頑張って下さい」と激励された。

大成功をかちとった「第3報」上映会（長崎）

ある全逓の分会では、「上は『連合』に行くという方針を打ち出しているけれど現場はそうじゃない。国労の清算事業団の物販も取り組んでいるので金額的にはそれほど多くないかもしれないけど、職場で回してみる」とのこと。

全体的には、地元の国労清算事業団の物販が取り組まれており、「もうちょっと早くきてくれればよかったのに」というところが多かったけれど、とにかく職場で回してみて取り組んでみようと言ってくれた。

長崎でも第三報の上映会

物販オルグの終盤をかざるものとして、「俺たちは鉄路に生きる」の上映会が地元の仲間六五名の参加のもと行われた。

宿泊で大変お世話になった「8・9反戦・反核長崎実行委員会」の先頭に立つ伊東鉄東さんは、「動労千葉の記録映画は、回を重ねるごとによくなってきている。第三報はいままでの映画のなかで一番感動的だった」と話して下さった。

また、映画上映ののち、国鉄労働運動の状況を国労九州の仲間、動労千葉から訴えた。

国労の仲間は、「今日、分割・民営の失敗はますます明らかになっている。にもかかわらず、国労中央は、清算事業団の切りすて、再就職方針を打ち出した。また、西日本本部が締結した出向協定は国労組合員の首切りに手を貸すものであり許せない。全国大会で訴えていく」と述べた。

動労千葉を代表して私は、長期波状ストを貫徹していることを中心に発言した。六〇名をこえる人の前で話す機会にめぐまれない私は大変にあがってしまった。

物販オルグで首都圏を回ったことは、今までも何回かあったが、長崎というところまで足をのばしたのは今回がはじめてで、ハードスケジュールであったが、まずまずの成果であったと思う。

夏季物販の成功にむけて、更に奮闘しよう。
目標一人一万五千円